

搾乳ロボットを導入した飼養形態で省力的な酪農経営の実現 ～川口牧場～

経営体の概要

事業実施前：平成13年

基幹作物：牧草、乳牛

経営面積：48ha

飼養頭数：75頭



事業実施後：平成29年

基幹作物：牧草、乳牛

経営面積：73ha

飼養頭数：117頭

取組の経緯と経営転換のポイント等

肥培かんがい施設の整備を契機に、平成21年に80頭規模のフリーストール牛舎を整備し、当時地域内では2～3台しか導入されていなかった搾乳ロボット(62頭規模)を導入して、飼養管理及びふん尿処理労力の省力化を図り、最も労働力を必要とする搾乳作業の1人体制を実現した。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上

搾乳ロボットは、牛の生理、生体に順応した搾乳方式で、この導入により1日4～5回の搾乳を行っている。この様なきめ細かな搾乳を行うことによって1頭当たり生乳生産量は増加し、平均8,800kgと高い生乳生産技術を確立している。

②単収・品質の向上

完熟したスラリーを有機質肥料として、経年散布することにより、土壌の物理性改善を図っている。毎年全ほ場に年3回散布を継続していることで、牧草収量は実施前から20～30%増収し、現在は約4,000kg/10aを確保している。

③省力化

搾乳ロボットは、24時間稼働するシステムで、搾乳作業の労力は大きく省力化され、従事者1人でも飼養管理が可能となった。また、搾乳データの記録や保存も自動的に行われるため、個体別に正確な情報を取得できるようになり、乳牛の健康管理に役立っている。



フリーストール牛舎全景



搾乳ロボット(ヨナグヒ・エジ-HPより)



JAコントラによる収穫作業

事業概要

事業種：環境保全型かんがい排水事業

関係市町：北海道厚岸郡浜中町

受益面積：13,065ha

事業期間：平成13年度～平成23年度

事業目的：畑地かんがい、排水改良、

主要工事：揚水機場2箇所、用水路349.6km、排水路47.4km

位置図(北海道)



はまなか地区

<問い合わせ先>

北海道開発局 農業水産部

農業振興課 調整係

電話：011-709-2311

(内線5684)

(平成29年度調査時点)